



Cisco Intersight 管理モード移行ツールの作業

- [Cisco Intersight 管理モード移行ツールの作業](#) (1 ページ)
- [移行準備レポートの説明](#) (3 ページ)
- [UCS ドメインの構成の変換](#) (5 ページ)

Cisco Intersight 管理モード移行ツールの作業

変革

IMM の移行を開始するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [IMM 遷移の追加] をクリックします。

ステップ 2 移行の名前を入力します。

ステップ 3 移行のタイプを選択します。

(a) 現在の UCS Manager ハードウェアと構成の互換性/準備状況の概要のみを表示する場合は、[準備状況レポートの生成] を選択します。

(b) 準備レポートを表示し、変換された構成を Intersight にプッシュする場合は、[構成を Intersight に移行 (Transition Config to Intersight)] を選択します。

ステップ 4 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 5 必要に応じて、プロキシ設定を有効にします。プロキシ設定を有効にする手順については、[付録 C : プロキシ設定](#)を参照してください。

ステップ 6 UCS Manager デバイスの詳細を入力します。

(a) 既存のデバイスの設定を移行する場合は、[既存の UCSM デバイスの選択] オプションを選択します。[ダウンロード] オプションを使用して、現在のデバイスの構成 JSON ファイルとインベントリ JSON ファイルをダウンロードできます。

構成 JSON ファイルには、既存の UCS Manager ドメインに存在するソフトウェア構成の詳細情報が含まれています。

インベントリ JSON ファイルには、既存の UCS Manager ドメインに存在するハードウェア インベントリの詳細情報が含まれています。

これらのファイルは、トラブルシューティングの目的でテクニカル サポート チームと共有できます。

(b) 新しい UCS Manager ドメイン構成を追加する場合は、**[新しい UCSM デバイスの追加 (Add New UCSM Device)]** オプションを選択します。該当のデバイスのデバイス IP/FQDN、ユーザー名とパスワードを入力します。

ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。

準備状況レポートが生成されます。すべての構成属性が UCS Manager ドメインから取得され、IMM に変換され、結果のレポートが生成されるため、このプロセスには数分かかる場合があります。

ステップ 8 **[レポートの表示 (View Report)]** をクリックしてレポートを表示するか、**[ダウンロード (Download)]** オプションを使用してレポートをダウンロードします。**[再生成 (Re-generate)]** オプションを使用して、最新の構成のレポートを生成できます。

ステップ 9 手順 3 で (b) を選択した場合は、**[次へ (Next)]** をクリックします。

ステップ 10 Intersight アカウントのラジオボタンを選択します。有効なオプションは、Intersight SaaS または Intersight アプライアンス VM です。

ステップ 11 次の手順を実行して、Intersight から API キー ID を生成します。

1. Intersight アプリケーションにログインします。
2. 右上隅にある歯車アイコンをクリックし、**[設定 (Settings)]** を選択します。
3. **[API]** セクションで、**[API キー (API Keys)]** をクリックします。
4. ページの右上にある **[API キーの生成]** をクリックします。
5. **[説明 (Description)]** フィールドに名前を入力し、**[OpenAPI スキーマバージョン 3 の API キー (API Key for OpenAPI Schema Version 3)]** を選択します。

(注) OpenAPI スキーマ バージョン 2 は、IMM 移行ツールではサポートされていません。

6. **[生成 (Generate)]** をクリックします。

API Key ID と Secret Key が生成されます。**[クリップボードにコピー (Copy to Clipboard)]** の青いアイコンを使用して、これらの値をクリップボードにコピーします。IMM 移行ツールアプリケーションに戻ります。

ステップ 12 次のフィールドに入力します。

- API キー ID: 前の手順で生成された API キー ID を入力します。
- 秘密鍵: Intersight で生成された秘密鍵を入力します。

また、Intersight アプライアンス VM を選択した場合は、FQDN を入力します。

ステップ 13 (注) IMM 移行ツール リリース 1.0.2 以降では、使用可能な構成ファイルをダウンロードして手動で編集し、**[詳細オプション]** を使用して同じものをアップロードできます。

[詳細オプション] をクリックし、編集したファイルを参照して、**[アップロード]** をクリックします。

アップロードされたファイルは、構成を Intersight にプッシュするために使用されます。

ステップ 14 [次へ (Next)] をクリックします。

Intersight との接続が確立され、変換された構成属性が Intersight にプッシュされます。

(注) 遷移が Intersight デバイスの Intersight にプッシュされている場合、または UCSM デバイスから UCSM 構成/インベントリをフェッチしている場合、デバイスの前のタスクが完了するまで、同じデバイスを他の遷移で使用することはできません。

デバイス管理

IMM 移行ツール、リリース 1.0.2 以降を使用すると、UCS システムと Intersight デバイスをより適切に管理できます。各デバイスに一意的ターゲット IP または FQDN を提供することで、デバイスの重複を避けることができます。

デバイスを追加および管理するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [デバイス管理 (Device Management)] に移動します。

ステップ 2 [デバイスの追加 (Add Device)] をクリックします。

ステップ 3 ドロップダウン リストから [デバイスタイプ (Device Type)] を選択します。

ステップ 4 ターゲット IP/FQDN を入力します

ステップ 5 ステップ 3 で選択したデバイス タイプが **UCS システム** の場合は、デバイスのユーザー名を入力します。そうでない場合は、ステップ 7 に進みます。

ステップ 6 デバイスのパスワードを入力し、ステップ 9 に進みます。

ステップ 7 ステップ 3 で選択したデバイス タイプが **Intersight** の場合は、API キーを入力します。

ステップ 8 秘密キーを入力します。

ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。

デバイスの詳細は、[デバイス管理] リスト ページに表示されます。

追加されたデバイスは、削除または編集できます。Intersight デバイスで編集できる値は API キーとシークレット キーで、UCS デバイスで編集できる値はユーザー名とパスワードです。



(注) 既存のデバイスの削除は、それに関連付けられた遷移がない場合にのみ可能です。

移行準備レポートの説明

IMM 移行準備レポートには、IMM への移行のための UCS Manager ドメインのハードウェア インベントリとソフトウェア構成の互換性の概要が表示されます。

準備レポートは次のセクションに分かれています。

1. 変換スコア：このセクションには、ハードウェア互換性、ファブリック構成、およびサーバーポリシー構成のスコアメーターが表示されます。
 - スコアメーターの解釈は、次のように説明できます。
 - 優れています：ほとんどすべてのハードウェア/構成を Intersight に移行できますが、多少の相違はあります。
 - 非常に良い：ほとんどのハードウェア/構成は移行できますが、一部のハードウェア/構成はサポートされていないか、Intersight への移行時に矛盾に直面する可能性があります。
 - 良好：ハードウェア/構成の約半分は Intersight に移行できますが、残りのハードウェア/構成はサポートされていないか、Intersight への移行中に矛盾に直面する可能性があります。
 - 悪い：少数のハードウェア/構成のみを Intersight に移行できますが、多くのハードウェア/構成がサポートされていないか、Intersight への移行中に矛盾に直面する可能性があります。



(注) 上記の評価は、一般的な使用例に基づいています。特定の環境の詳細レポートを確認して、ドメインへの移行の影響を評価することを強くお勧めします。

2. 全体の要約：全体の要約セクションは、IMM 変換の注意点、ハードウェア互換性の要約、および IMM 構成変換の要約で構成されます。
 - Intersight マネージドモード変換の注意点：このセクションでは、変換プロセスを開始する前に確認する必要がある注意点を示します。変換プロセスに関連するエラーと Warning（注意）が表示されます。エラーは変換がサポートされていない要素を示し、Warning は完全に変換できない要素のリストを示します。
 - ハードウェア互換性の概要：ファブリックインターコネクト、ファブリックエクステンダ、アダプタ、IO モジュール、シャーシ、ブレード、ラックなど、該当するハードウェアコンポーネントごとに個別の円グラフが表示されます。円グラフのカラーコードは、次のように説明されます。
 - 緑色は、ハードウェアが移行に対応していることを示します。
 - オレンジ色は、ハードウェアの互換性のためにファームウェアのアップグレードが必要であることを示しています。
 - 赤色は、ハードウェアが現在移行に対応していないことを示しています。
 - Intersight マネージドモード構成変換の概要：このセクションには、UCS Manager オブジェクトと、Intersight の対応する変換されたオブジェクトのマッピングテーブルが表

示されます。サーバー プロファイル テンプレート、サーバー プロファイル、ドメイン ポリシー、プール、サーバー ポリシーなどの論理オブジェクトごとに個別のテーブルが表示されます。

3. **ハードウェアの互換性**：このセクションには、インベントリの各コンポーネントの互換性レポートが詳細に表示されます。これは、ファブリック ハードウェア互換性レポート、シャーシハードウェア互換性レポート、ラック ハードウェア互換性レポートなどで構成されています。各コンポーネントをクリックすると、互換性レポートの表が表示されます。この表は、ハードウェアの詳細をリストし、ハードウェアとファームウェアに互換性があるかどうかを示しています。左側の黄色の見出しは、IMM 対応になるためにファームウェアアップグレードが必要なコンポーネントがほとんどないという **Warning**（注意）を示しています。左側の赤い色の見出しは、IMM 移行と互換性のないコンポーネントがほとんどないというエラーを示しています。左側の青色の見出しは、**Informational**（情報提供）メッセージを示しています。
4. **構成変換**：このセクションには、UCS Manager ドメインに存在する各論理オブジェクトの詳細な互換性レポートが表示されます。各オブジェクトの見出しをクリックすると、説明の表が表示されます。これらの表には、変換中に使用される属性名と値、ソース UCS Manager と変換された Intersight オブジェクトのマッピング、デバイスの起動順序などがリストされています。黄色のアイコンは、一部のオブジェクトを完全に変換できなかったという **Warning**（注意）を示します。赤色のアイコンは、サポートされていないオブジェクトがほとんどなく、変換できないというエラーを示しています。青色のアイコンは、**Informational**（情報提供）メッセージを示します。このメッセージに従って対処できます。

UCS ドメインの構成の変換

IMM 移行ツールで UCS Manager デバイスを追加し、**[次へ (Next)]** をクリックすると、ユーティリティがバックエンドで実行され、ハードウェア インベントリと構成を検証して、UCS Manager ドメインが IMM と互換性があるかどうかを確認します。

UCS Manager に接続し、既存の論理属性を複製します。これらには、プロファイル、ポリシー、プール、およびテンプレートが含まれます。

[Intersight へのプッシュ (Push to Intersight)] タスクが正常に完了すると、Intersight アプリケーションは変換されたオブジェクトを更新時に反映します。



- (注) 変換されたオブジェクトと同じ名前のオブジェクトが Intersight に既に存在する場合、変換されたオブジェクトによって上書きされます。

換算の前提

IMM 移行ツールでの変換プロセスの前提条件は次のとおりです。

- **イーサネット ネットワーク制御ポリシー** : Intersight のイーサネット ネットワーク制御ポリシーは、UCS Manager の 2 つの異なる情報ソースを使用して作成できます。
 - サーバ vNIC : UCS Manager のネットワーク制御ポリシーへのマッピング
 - アプライアンス ポート : UCS Manager のアプライアンス ネットワーク制御ポリシーへのマッピング

UCS Manager のネットワーク制御ポリシーを使用して Intersight のイーサネット ネットワーク制御ポリシーを作成する場合、Intersight のイーサネット ネットワーク制御ポリシーの名前は UCSM のネットワーク制御ポリシーと同じになります。

UCS Manager のアプライアンス ネットワーク制御ポリシーを使用して Intersight のイーサネット ネットワーク制御ポリシーを作成しているときに、Intersight のイーサネット ネットワーク制御ポリシーの名前は、UCS Manager のネットワーク制御ポリシーの名前に **[_appliance]** というサフィックスが付けられます。

- **イーサネット ネットワーク グループ ポリシー** - UCS Manager には、同等のイーサネット ネットワーク グループ ポリシーはありません。イーサネット ネットワーク グループ ポリシーの詳細は、VLAN グループから取得できます。各 VLAN グループには VLAN の詳細があり、それらの詳細はイーサネット ネットワーク グループ ポリシーの作成に使用されます。イーサネット ネットワーク グループ ポリシーの名前は、VLAN グループの名前と同じになります。
- **イーサネット QoS ポリシー** : UCS Manager の QoS ポリシーは、Intersight でイーサネット と FC QoS ポリシーに分割されます。
- **ファイバチャネル ネットワーク ポリシー** : UCS Manager には同等のファイバー チャネル ネットワーク ポリシーはありません。ファイバチャネル ネットワーク ポリシーの詳細は、サービス プロファイル (Intersight) の作成中に取得できます。ファイバチャネル ネットワーク ポリシーの名前は、SAN 接続ポリシーと vHBA の名前に由来します。
- **ファイバチャネル QoS ポリシー** : UCS Manager の QoS ポリシーは、Intersight でイーサネット と FC QoS ポリシーに分割されます。
- **IMC アクセス ポリシー** : インバンド ネットワーク設定の IPv4 および IPv6 アドレスの異なる IP プールを持つ UCSM のサービス プロファイルの IMC アクセス ポリシーの作成は、現在サポートされていません。UCS Manager には、同等の IMC アクセス ポリシーはありません。IMC ポリシーの詳細は、サービス プロファイルから取得できます。各サービス プロファイルには、インバンド ネットワーク、IPv4 および IPv6 プールがあります。この情報を使用して、IMC アクセス ポリシーが作成されます。
 - IMC アクセス ポリシーの名前は、インバンド ネットワーク VLAN およびインバンド プールの名前を使用して派生します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
 - UCS Manager では、サービス プロファイルで IPv4 プールと IPv6 プールを選択するための個別のオプションがありますが、Intersight では、IMC アクセス ポリシーで IP プールを選択するオプションは 1 つだけです。Intersight で IMC アクセス ポリシーを作成する前に、UCS Manager の IPv4 および IPv6 プールを単一のプールにマージすることをお勧めします。しかし、これは実装するのが非常に簡単ではありません。変換

中に、2つの異なる IP プールに属するインバンド IPv4 および IPv6 アドレスを持つ サービスプロファイルがある場合、IPv4 固有のプールのみが IMC アクセスポリシーの作成に考慮されます。

- **IPMI オーバー LAN ポリシー** : Intersight の IPMI オーバー LAN ポリシーは、UCS Manager の IPMI アクセスプロファイルにマッピングされます。IPMI アクセスプロファイルの IPMI ユーザー関連情報は、Intersight のローカルユーザー ポリシーに移動されます。
- **iSCSI ブート ポリシー** - UCS Manager に相当する iSCSI ブート ポリシーはありません。iSCSI ブート ポリシーの詳細は、サービスプロファイルから取得できます。各サービスプロファイルには、独自の iSCSI vNIC セクションがあります。iSCSI vNIC の詳細は、サービスプロファイルの iSCSI ブートパラメータ セクション内にあります。この情報を使用して、iSCSI ブート ポリシーが作成されます。
 - iSCSI ブート ポリシーの名前は、サービスプロファイルと iSCSI vNIC の名前を使用して派生します。
 - UCS Manager には、iSCSI vNIC ノードおよび個々の iSCSI vNIC の IQN プール/イニシエータ名を提供するオプションがあります。Intersight には、個々の iSCSI vNIC 用のそのようなオプションはありません。Intersight の場合、IQN は LCP レベルにあります (vNIC にはありません)。
 - 通常、UCS Manager には、vNIC 用に 2 つの iSCSI ブート ターゲットを作成するオプションがあり、各ターゲットには独自の CHAP 詳細があります。ただし、Intersight には、iSCSI ターゲットの CHAP 詳細を提供するオプションが 1 つしかありません。
 - CHAP 認証の場合、ツールへの入力として CHAP パスワードを提供する必要があります。それ以外の場合は、ポリシーの作成中にデフォルトパスワードが考慮されます。
- **iSCSI 静的ターゲット ポリシー** : UCS Manager に同等の iSCSI 静的ターゲット ポリシーはありません。iSCSI 静的ターゲット ポリシーの詳細は、サービスプロファイルから取得できます。各サービスプロファイルには、独自の iSCSI ブートパラメータ セクションがあります。これらの iSCSI ブートパラメータを使用して、Intersight で iSCSI 静的ターゲット ポリシーが作成されます。単一の iSCSI インターフェイスの場合、優先順位に基づいて複数のターゲットが存在する可能性があります。したがって、iSCSI ターゲット名は、サービスプロファイル名、iSCSI インターフェイス名、および iSCSI ターゲットの優先度の組み合わせとして設計されます。
- **LAN 接続ポリシー** : UCSM では、vNIC を複数の方法で設定できます。
 1. **インライン vNIC**
 - スタンドアロン vNIC の使用
 - vNIC テンプレートの使用
 2. **LAN 接続ポリシー**
 - スタンドアロン vNIC の使用

- vNIC テンプレートの使用

UCSM では、LAN/SAN 接続ポリシー、または vNIC/vHBA テンプレートを使用するかどうにかかわらず、インライン vNIC/vHBA のいずれかにすることができます。接続を構成する唯一の方法であるため、考えられるすべての組み合わせが考慮され、それに応じて Intersight の LAN/SAN 接続ポリシーに変換されます。

- **電源ポリシー** : UCSM では、Intersight の電源ポリシーは、グローバルポリシーの電源ポリシー セクションとして変換されます。
- **SD カード ポリシー** : UCS Manager に相当する SD カード ポリシーはありません。このポリシーは、UCS Manager のローカルディスク構成ポリシーから情報を読み取ることで作成できます。UCS Manager のローカルディスク構成ポリシーで構成された Flexflash がある場合、同等の SD カード ポリシーが Intersight で作成されます。

- **ストレージポリシー** :

- ストレージプロファイルのローカル LUN での自動展開

すべての仮想ドライブは、デフォルトで **[自動展開 (Auto Deploy)]** です。オプションが **[no-auto-deploy]** に設定されている場合、サービスプロファイルでマップされた VD とストレージポリシー VD は同じ名前にする必要があります。名前が異なる場合は、無効な構成です。

- UCSM の LUN セットは、Intersight のシングル ドライブ RAID 構成に相当します。
 - LUN セット内のすべてのディスク スロットを単一の番号のアレイにマージします。
 - すべてのドライブの VD 構成は同一である必要があります。各 LUN セットに異なる VD 構成がある場合は、無効な構成としてフラグを立てます。
- M.2 ドライブの構成
- UCSM で **[未指定 (Unspecified)]** に設定されている LUN サイズは、ExpandToAvail フラグが True に設定されている仮想ドライブに対してのみ使用する必要があります。フラグが False に設定されている場合、それは無効な構成です。
- 特定のストレージプロファイルと汎用ストレージプロファイルを持つ UCSM のサービスプロファイルをマージして、Intersight で単一のストレージプロファイルを形成する必要があります。

- **VLAN ポリシー** :

Intersight の vLAN ポリシーは、UCS Manager の vLAN セクションにマップされます。UCS Manager の場合、vLAN の作成中にファブリック ID (A または B、または両方) を選択するオプションがありますが、Intersight では同じ状態ではありません。変換の一環として、ファブリック ID の値が vLAN ポリシーの名前にサフィックスとしてファブリック ID を付加することによって **[A]** または **[B]** に設定されている場合、2つの異なる vLAN ポリシー

が作成されます。ファブリック ID 値が [両方 (Both)] に設定されている場合、単一の vLAN ポリシーが作成されます。

• VSAN ポリシー :

Intersight の vSAN ポリシーは、UCS Manager の vSAN セクションにマッピングされます。UCS Manager の場合、vSAN の作成中にファブリック ID (A または B、または両方) を選択するオプションがありますが、Intersight では同じ状態ではありません。変換の一環として、ファブリック ID の値が vSAN ポリシーの名前にサフィックスとしてファブリック ID を付加することによって [A] または [B] に設定されている場合、2 つの異なる vSAN ポリシーが作成されます。ファブリック ID 値が [両方 (Both)] に設定されている場合、単一の vSAN ポリシーが作成されます。

高度な構成

次の手順を実行して、詳細構成設定用に *convert_options.json* ファイルを編集できます。

1. VM に SSH 接続します。
2. `~/imm-migration/config/convert/convert_options.json` を好みに合わせて編集します。



(注) IMM 移行ツールで使用できるさまざまな変換オプションについては、[付録 B: 変換オプション](#)を参照してください。

3. 更新された *convert_option.json* ファイルにより、
 - 新しい構成の新しいレポートを作成できます。
 - [準備状況レポート] ページに移動して、既存の構成のレポートを再生成できます。



(注) 構成ファイルでは、パスワードは暗号化された形式で保存されます。パスワードフィールドを編集する場合は、**encrypted_password** フィールドを **password** フィールドに置き換える必要があります。

UCS ドメインの構成の変換

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。